

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	<ul style="list-style-type: none"> 児童の「できた」「わかった」を大切に授業づくりに努める。 めあてを示し、見通しをもって授業に取り組めるようにする。 お互いの思いや考えを伝え合う場面を設定し、学び合える授業づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態を把握し、教材研究に努め、机間指導などを丁寧に行った。 めあてを示すとともに、児童の思考の流れが分かるように板書を工夫した。来年度、学年で見合う機会を設け、児童が主体的に学習できるように改善したい。 ペア学習やグループ学習など、話し合う場面は設定した。話し合う必要感のある課題づくりを考えていきたい。 	B
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> クラブ、委員会活動、登校班での異学年の人や地域の人と積極的にかかわりをもつようにする。 道徳の時間を大切に、心の変容を価値づける。(年に1回以上、授業を公開する。) 人権週間の取り組みを工夫し、計画的に意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブ・委員会では、他の学年や地域の人とかかわりをもって活動できた。スポーツや1年生を迎える会などを異学年交流の場としてとらえ、上級生を見て育つ環境づくりに取り組んだ。人権集会に関しては、相手を思いやる気持ちを育てたというところまではいかない。伝えあう意識は高まった。 	B
健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> 年2回のすこやか会議では、「健康について、自分たちが知りたい身近な疑問をとことん追及しよう！」をテーマに、健康への興味を深める。 体力アップ週間として、各学年に応じた運動(縄跳び、持久走等)に取り組み、楽しく体を動かしながら体力の向上を図っていく。 給食時間や食育タイム(月に1回)を使って、計画的に食についての指導をする。 食材を身近に感じさせるために、長津田育ちの野菜を積極的に給食に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> すこやか会議では、1回目「なぜ爪を切ったほうがよいか」調べて検証し、2回目は明治の方をお呼びして、食事の大切さを学び、成長期によりストレッチを覚えていきたい。健康への興味が高まった。 体力アップ週間以外にも、長縄週間など定期的に体を動かす機会を設けた。 計画的に食育を進め、生涯にわたる健康的な生活をおくるための力を育んだ。 年間を通し、地場野菜を給食に取り入れ、食材への興味関心を高めた。 	B
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と教職員の連携を図り、共に子どもを育てていく思いを共有し環境や体制を整える。(複数の相談窓口や支援があることを周知する。) 全職員で情報を共有する場をもち、児童へ適切な支援ができるようにする。 TT(チームティーチング)や取り出しによる学習支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの相談窓口は複数(担任、学年担任、専任、養護、カウンセラーなど)あることは、周知できている。実際に目的別に相談はされている。 全職員が全校の児童についての情報共有をする場もできて、有意義だった。継続するべき。 TTや取り出し学習は全学年で30名前後の児童の支援ができ、効果も上がっている。 	B
キャリア教育(自分づくり)	<ul style="list-style-type: none"> 「生活科」「総合的な学習の時間」を中心に、地域と関わり、教材となるものの開発を行う。 まちの「ひと・もの・こと」と、積極的に関わり、問題解決的な学習が展開できるような学びを推進する。 和太鼓やお囃子などの演奏を体験する活動を通して、次代につながる伝統文化や、人の生き方、まちの一員としての意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 区制50周年や大豆など新たな材に取り組み、日常の中から課題を見つけ、人とかかわりながら主体的に取り組んだ。 問題解決的な学習が展開できるよう努めた。 和太鼓やお囃子は今後も継続して行っていく。 	B
学校運営協議会(地域連携)	<ul style="list-style-type: none"> 委員の方に、行事や授業を参観する機会を作り、学校の特色やよさを知ってもらう。 学校運営協議会の意見や助言を積極的に学校運営に取り入れる。 地域の人や自然、文化とかかわる学習や活動を取り入れていく。 地域、家庭との交流、連携を深め、地域の学校として「ひと・もの・こと」と積極的に関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を年3回開き、委員の方から、日ごろの児童の様子や、行事等を見ての感想・意見をいただき、学校運営にフィードバックしていった。 「まち・ひと」連携交流計画に沿って、各学年の学習において地域の方々に大きくかかわって頂き、どの学年においても地域の材を生かした体験的な深い学習を行うことができた。 3年生が農家の方々との関わりを通して、長津田育ち野菜について知り、野菜作りに込める思いを学ぶことができた。 	B
いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安心して豊かに生活できる学校であるために、担任以外にも児童支援専任等、相談できる人が複数いることを知らせ、問題の解決にあたる。 アンケートやYP、面談などを年間複数回行い、児童一人一人の心に丁寧に寄り添う。 児童支援専任を中心に、常に全教職員で児童を見守る体制を構築する。(各学年に副担任を置き複数の目で児童を見守る。) 日常の学習や出前授業を計画的に行い、いじめは絶対に行けないという意識を育てる。 校内研修を通して、未然防止、早期発見ができるスキルアップをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任以外に相談できる専任や養護教諭がいて問題解決にあたることができた。 アンケートやYPから児童の心の声を聞き、気になる児童は面談を行い、児童一人一人に寄り添う体制はできた。 運営全体後に、全職員で要配慮児童の情報共有をしたり、いじめの未然防止の研修をしたりして、職員がアンテナを高く保つこと、スキルアップしていくこと、視野を広げることを意識できる時間ももてた。 	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	<ul style="list-style-type: none"> メンターチームの活動はメンターリーダーを中心に自主的に運営する。全教職員で支援する体制を作る。 学校運営協議会の助言や学校評価等からのデータをもとに、教職員それぞれが広い視点で目標を定め学校運営に参画する。 キャリアステージに応じた目標と具体的取組を設定(自己観察書)して公務に取組むことで教師力の向上を目指す。 行事や業務の精選、会議の効率化(内容の精選・ペーパーレス)、留守番電話の設定等を行い、教師本分の仕事に集中する時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> メンターチームの活動は、授業研の事前・事後研究が中心であった。自分たちで学びたいことを自主的に研修していくことは難しかった。 学校運営部会が中心となり、行事や校務の精選を行った。職員がそれぞれの立場で学校運営に参画することができた。しかし、それぞれの部会で話し合ったことを共有することが難しいことがあったので、会議や報告の仕方を改善していきたい。 	B
ブロック内評価後の気付き	<ul style="list-style-type: none"> 合同授業研究では、「9年間で育てる子ども像」を意識しながら参観し、発達段階に応じた手立てのとり方を学ぶことができた。 教務主任会では、授業研究の持ち方が話題になった。各校無理なく参加するには今年度のような各校の重点研等を利用した自由参加の形ではなく、学校としてしっかり日時を確保していく必要があることを確認した。 新型コロナウイルス対応のため、小中交流は実現しなかったが、歌を披露し合うというアイデアは良かった。来年度は実現させたい。 		
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果をみると、親と子どもでとらえにズレがある。それは、親が「かつてのいぶき野小の取組」を良さととらえているのに対し、子どもは「今の教育観に基づいた取組」に手応えを感じているからではないか。 キッズは5時まで預かる区分1と7時まで預かる区分2がある。今年は区分2の割合が増えている。 		
中期取組目標振り返り	<p>○誰もが安心して過ごすことができるように、定期的なアンケートや児童の状況把握を丁寧に行い、担任、学年、児童支援専任などがチームで問題に対応し解決することが定着した。また、学校だけでなく他機関との連携も進んだ。○生活科や総合的な学習の時間を中心に、児童が問題をもち解決していく学習になる授業の研究をしたが、来年度も「材」の開発を含め研究を継続していく。○上級生をみて育つ様々な活動の良さを確認し、新学習指導要領を踏まえた教育課程や行事の見直しを行った。○食育やすこやか会議の提案を実践して、さらに健やかな体作りを推進していく。</p>		